

## ○記号・略語の説明

◆…事業計画書にある項目

◇…事業計画書にない項目

新…新規事業

重…重点事業

募…共同募金配分事業

〇〇から受託…受託事業

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-1
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	法人運営		

**【事業報告】**

(1) 法人運営

◆理事会、評議員会、監査会の開催

理事会	5回
評議員会	4回
監査会	4回

◆各委員会の開催

経営企画委員会	7回
評議員選任・解任委員会	2回（内、書面決議 2回）

◆例規管理

◆法人沿革整理

◆視察受け入れ

実績	0件
----	----

(2) 労務管理業務

◆人事管理、職員採用、資格取得支援

◆福利厚生

◆健康診断、ストレスチェック

◆ハラスメント対応

相談件数	2件
------	----

(3) 施設管理営繕業務

◆備品管理

◆社内LANシステム管理

◆社有車両管理

◆貸館業務

(4) 福祉サービス苦情解決事業

◆第三者委員会の設置（共同設置）

介護保険サービスおよび障害福祉サービス利用者等がサービスを適切に利用できるよう支援することを目的に、三重郡内の社会福祉協議会と施設（三重郡老人福祉施設組合 みずほ寮、社会福祉法人檜の里 あさけ学園）が共同で設置している。

◆苦情の受付、解決業務

介護保険サービスに関する苦情	40件（内未解決0件）
障害者総合支援サービスに関する苦情	9件（内未解決0件）

上記以外の苦情	28件（内未解決0件）
第三者委員会の開催	2回
第三者委員苦情解決相談会の開催	1回 相談件数 0件

(5) 権利擁護事業 **重**

◆成年後見制度の利用支援

成年後見制度や任意後見制度について説明し、利用に向けた手続きのアドバイスを行った。

◆法人後見受任者支援

受任件数 3件（後見3件）

（令和5年度内 新規0件 終了1件）

◆法人後見委員会の開催

3回

（新型コロナウイルス感染防止のためオンラインと来場の併用開催）

(6) 社会福祉法人地域公益活動の取り組み

◆三重県社会福祉法人地域公益活動事業への参画、協力

みえ福祉の「わ」創造事業への参画

◆町内社会福祉法人連絡協議会の運営

実施なし

(7) 経理業務

◆効率化による適正な会計業務

(8) 自主財源の確保と活用

◆寄付金の活用

篤志寄付 27件

篤志額 1,960,804円

寄贈物品 車いす、米、もち米、緊急支援物資（食品）

福祉基金活用額 5,870,950円

年度末積立総額 176,084,423円

◆介護予防・日常生活支援総合事業の立ち上げ時等の助成金交付

対象となる団体がなく助成金の交付なし

**【まとめ】**

- 法人運営や労務管理に関する法改正などへの対応を行った。
- 自主財源の確保については、寄付の件数は減ったが、定期的な篤志者からは継続した寄付があった。
- 福祉基金を活用して地域福祉発展事業資金助成事業を創設し、2件の申請を受

けた。また、保健福祉センターけやきの修繕のためにいただいた寄付は、一般浴のひび割れたガラスや不具合が生じていたシャワーの取り換え、歩行浴の扉などの修繕費用として活用した。

- 法人後見業務について、職員では対応に困る場合は、後見委員の弁護士に相談し専門的なアドバイスを得ている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-2
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	ボランティア事業		

### 【事業報告】

#### (1) ボランティアセンター事業

- ◆ボランティア活動の振興

#### (2) 啓発推進事業

- ◆町社会福祉協議会広報紙「みんなのふくし」の発行 **募**  
全戸配布（月1回発行）
- ◆各種広報の実施 **募**
- ◆ホームページ管理
- ◆YouTube「けやきチャンネル」の配信
- ◆地域福祉教育推進事業の支援および推進 **募**
- ◆福祉協力校事業 **募**  
依頼件数：20件（内、社会見学受け入れ4件）

#### (3) 養成研修事業

- ◆地域サポーター養成講座 **募**  
1回 15人
- ◆各種ボランティア養成講座の開催  
音訳ボランティア養成講座 全6回 延べ40人

#### (4) 登録斡旋事業

- ◆ボランティア登録および情報管理
  - ①ボランティア活動者数
 

個人ボランティア数	105人
団体数（ボランティア活動を主目的）	539人（45団体）
団体数（ボランティア活動以外を主目的）	48人（3団体）
  - ②ボランティア連絡協議会登録者数 352人
- ◆ボランティア斡旋業務の充実および推進  
ボランティアセンターでの相談対応件数 109件
- ◆災害ボランティア派遣等業務  
派遣実績なし

#### (5) ボランティア組織化事業

- ◆ボランティア連絡協議会への協力支援
 

ボランティア連絡協議会助成金	855,000円
ボランティア活動交付金	25,000円×18団体

ボランティア事業助成金	50,000円×1事業
	20,000円×8事業
	9,000円×1事業

- ◆ボランティアグループへの協力支援
- ◆新しいボランティアグループの組織化の検討  
新規ボランティアグループ登録 2団体

#### (6) 活動基盤整備事業

- ◆ボランティア保険の取り扱いおよび利用促進
 

ボランティア活動保険加入者数	681人
ボランティア行事用保険	230件 6,320人
- ◆各種助成制度の利用促進
 

ボランティアセンター登録団体の各助成金制度利用	2件
-------------------------	----

#### 【まとめ】

- けやきフェスタは新型コロナウイルスの影響を鑑みて、中止した。
- YouTube チャンネルは、各係からメンバーを選任し、様々な視点からの配信を始めた。
- SNSによる啓発活動に力を入れるため、インスタグラムやXによる投稿を始めた。
- 福祉協力校事業は、福祉協力校に事業助成を行い、各校で福祉教育の取り組みが行われた。各依頼に合わせて障がい当事者やボランティアグループの協力を得るなど、福祉教育の幅も広がった。
- ボランティア養成講座は今年度、音訳の講座を開講し、ボランティア加入につながった。
- ボランティア団体およびボランティア活動者について、新規で団体を立ち上げようとする団体の相談に応じた。
- 能登半島地震に関する災害ボランティアの活動保険受付を行った。
- コロナ禍の影響を受け停滞していたボランティア活動が活発化し、昨年度よりボランティア行事保険加入件数、人数がともに増加した。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-3
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	ふれあいのまちづくり事業		

【事業報告】

(1) 地域福祉活動推進事業 **重**

◆町地域福祉活動計画・町社会福祉協議会発展強化計画の作成 **重**

菰野町地域福祉活動計画策定委員会	4回
ワーキンググループ	7回
行政調整会議	2回

(2) 小地域福祉ネットワーク事業 **重**

◆小学校区単位の小地域活動実践

生活支援体制整備事業（管理No.2-1-12）に記載

竹永地区福祉会たすけあい♥竹永の活動支援

理事会	3回	参加者	延べ46人
交流事業部行事	5回	参加者	延べ109人

鵜川原地区福祉会ふれあい鵜川原の活動支援

鵜の里茶の間	10回	参加者	延べ261人
--------	-----	-----	--------

◆地区福祉懇談会の開催

菰野西地区	参加者	20人
菰野東地区	参加者	20人
鵜川原地区	参加者	18人
竹永地区	参加者	14人
朝上地区	参加者	34人
千種地区	参加者	24人

◆小地域ふれあいネットワーク事業の推進 **募**

①ふれあい弁当事業の実施（センター方式、地区別方式）

センター給食		2,678食
ボランティア		延べ273人（配達は民生委員）
各地区のふれあい弁当	菰野地区	580食
	鵜川原地区	216食
	竹永地区	133食
	朝上地区	655食
	千種地区	345食
ボランティア		延べ641人
給食会議		1回

②ふれあいネットワークの集いの開催

○一人暮らし高齢者の集い（センター給食利用者）

1回開催	参加者	41人
------	-----	-----

○ふれあいネットワークの集い

1 地区開催 参加者 30人

③介護者の集い

1 回開催 参加者 8人

◆日常生活再生支援事業の実施

ケースの相談がなく、事業実施はなかった。

(3) 地域福祉活動モデル事業

◆調査研究

「地域で安心して暮らし続けるためのアンケート」(住民アンケート)を実施

配布数1,000通 回収率52.4%

◆先駆的・開拓的サービスの開発

住民参加型在宅福祉サービスグループへの支援

・いいね!大羽根地域まごころサポートサービス

利用会員 26人 提供会員 25人 賛助会員 17人

年間活動時間 767.5時間(前年比179.5時間増)

定例会 毎月第1水曜日 11回開催

・くらしサポートこもの愛の手

利用会員 19人 提供会員 18人

年間活動時間 360時間

定例会 毎月第2木曜日 12回開催

・たすけあい♥竹永

利用会員 7人 提供会員 23人

年間活動時間 237.5時間(前年比45.5時間減)

定例会 毎月第2月曜日 12回開催

・朝上ささえ愛

利用会員 21人 提供会員 39人 賛助会員 3人

賛助団体 1団体

年間活動時間 393時間50分(前年比45時間50分増)

定例会 12回開催

・地域サポーターの会ちくさ

利用会員 31人 提供会員 18人 賛助会員 5人

賛助団体 2団体

年間活動時間 843.5時間(前年比89.5時間増)

定例会 毎月第2火曜日 12回開催

◆住民参加型在宅福祉サービスグループへの支援 **募**

各グループへ助成金 30,000円×5グループ

◆地域助け合い活動推進助成事業の実施

いいね!大羽根 助成金 22,000円

くらしサポートこもの愛の手 助成金 14,000円

たすけあい♥竹永 助成金 22,000円

朝上ささえ愛	助成金	35,000円
地域サポーターの会ちくさ	助成金	17,000円

(4) 地域福祉活動支援事業および推進事業

◆青年学級（勤労軽度知的障がい者の集い）の開催と充実

4回開催 参加者 延べ 25人

◆在宅重度障がい者「生活交流会」の開催と充実

7回開催 参加者 延べ 8人

◆安心安全対策事業の実施 **募**

実施なし。

◆小地域ふれあいサロンの開発運営および自立支援

サテライトデイサービス事業（管理No.2-1-6）に記載

◆福祉車両貸出事業の実施 **募**

貸出件数 271件

◆福祉機器貸出事業の実施 **募**

車いす	141件
ポータブルトイレ	33件
シャワーチェア・浴槽台・浴槽手すり	41件
床置き型手すり	17件
杖・松葉杖	11件
歩行器・歩行車	12件
スロープ	2件

(5) ふれあい相談センター事業

◆ふれあい相談センターの運営

①一般相談	心配ごと相談	48日	25件（面接23件、電話2件）
	一般何でも相談	22日	12件（面接12件、電話0件）
②専門相談	法律相談	12日	79件
	人権相談※	48日	（心配ごと相談に含む）
	行政相談※	12日	（心配ごと相談に含む）

※役場総務課主管

③職員による相談対応	17件（面接2件、電話15件）
------------	-----------------

**【まとめ】**

- 各関係機関の代表者をメンバーにした策定委員会や行政職員、職員などによるワーキングを行い、令和6年度から5か年にかけての地域福祉活動計画を策定した。
- 小学校区単位の小地域活動として鵜川原地区は、住民同士のつながりを作るために、「鵜の里茶の間」という名で集いの場づくりを行った。活動は月1回とし、

創作活動や運動などを実施しながら、参加者同士の交流を図った。

- 介護者の集いについて、今年度は介護者自身の健康づくりをテーマに開催した。事業者の協力をいただき、野菜摂取量や歩行状態の評価などを実施し、自身の健康を振り返る機会とした。
- 地区福祉懇談会では、地域福祉活動計画の策定に向けて各地区の意見の聞き取りを行った。
- センター給食サービス（センター方式）、ふれあい弁当サービス（地区別方式）ともに、コロナ禍以降では初めて、ボランティアが調理をした弁当を配達することができた。また、ふれあい弁当サービスでは、昨年度同様、活動するボランティアの減少が著しく、一部の地区では一時的に新規の受け入れを調整した。利用者にとっては手作りの弁当が届くことで好評をいただいております、同時に地域での見守りや孤独死の防止や早期発見の役割を担っている。
- 調査研究については、定例の調査である「地域で安心して暮らし続けるためのアンケート」を実施し、地域福祉活動計画の作成の考察に充てた。回答を郵送のほかWebによる方法も選択できるようにした。
- 住民参加型在宅福祉サービスグループの啓発活動として、すべてのグループが初めて各地区のふれあいまつりに参加した。
- 住民参加型在宅福祉サービスグループの活動にあたって、住民参加型在宅福祉サービス助成金及び地域助け合い活動推進助成金の交付により、各グループの運営支援を行い、活動の充実を図った。
- ふれあい相談センター業務は、新型コロナウイルスが5類に移行したことで、相談員の体制をコロナ以前に戻し、行うことができた。
- 青年学級は、生活交流会と合同で4回開催した。参加者に魅力的な行事を計画し、参加者数の増強に努めた。3月に開催した県外へのバスでのお出かけは参加者数が多かった。
- 生活交流会は、利用会員が減少し、行事参加者が少ない状況が続いている。今年度も引き続き、青年学級と合同で行事を開催した。
- 福祉車両貸出件数は、前年度よりやや増加している。
- 福祉機器貸出は、介助式の車いすを希望される方が多く、お盆や行楽のシーズンは特に増える傾向にある。介護保険認定調査結果が出るまでの貸出としての需要が高い。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-4
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	福祉資金貸付事業		

### 【事業報告】

#### (1) 生活困窮者支援事業

##### ◆町社会福祉協議会福祉資金の貸付、償還指導

貸付決定件数 0件

貸付決定額 0円

##### ◆三重県社会福祉協議会生活福祉資金の貸付取り扱い、償還指導

貸付相談件数 延べ163件

貸付決定件数 6件

貸付決定額 1,830,000円

<内訳>緊急小口資金 2件 70,000円

臨時特例 0件 0円

福祉費 2件 515,000円

教育支援資金 2件 1,245,000円

##### ◆三重県社会福祉協議会生活相談支援センターへの協力

生活困窮に関する相談があった際、センターと情報共有しながら、窓口相談や自宅訪問など自立に向けた支援を行った。

##### ◆家計相談事業の実施

相談件数 0件

##### ◆相談窓口への仲介

相談内容に応じて各種相談窓口への仲介を行った。

##### ◆コープみえと協定を結び、食料品や日常用品を生活困窮者に配布

他制度につながるまでの緊急時の食糧支援として生活困窮者に配布している。

### 【まとめ】

- 令和5年1月から新型コロナウイルス特例貸付の償還が開始されたが、今でも生活が苦しく、「償還が難しい」といった相談が多い。償還免除に該当しない方には、猶予申請や少額返済を提案し、各世帯の状況に応じた対応に努め、生活再建を図るために関係機関と連携して支援に取り組んだ。
- 生活困窮者が町役場に生活相談をした際に、当法人の食糧支援を紹介されることが多く、生活保護支給決定までのつなぎとしての利用や、生活再建までの一時的な支援として利用を提案している。また、生活協同組合コープみえなどからの寄贈食料品を提供し、金銭による支援だけでなく、現物による支援を行うことで生活の安定に役立った。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-5
	拠点区分	補助金事業	決算書	70頁
	サービス区分	共同募金事業		

### 【事業報告】

#### (1) 共同募金事業

##### ◆共同募金委員会の開催

1回開催

##### ◆共同募金（一般募金）運動の実施

目標額 5,933,800円

実績額 6,436,781円（達成率108.4%）

＜内訳＞戸別募金	5,600,620円
学校募金	49,082円
職域募金	297,374円
法人募金	203,200円
イベント募金	94,085円
個人募金	191,008円
その他（UMOOU募金、利息）	1,412円

##### ◆歳末助け合い運動の実施 **募**

目標額 250,000円

実績額 250,000円（達成率100%）

・一人暮らし高齢者への歳末もち配布事業

昨年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、慰問品であるのし餅を町内の事業者に発注し、菰野町民生委員児童委員協議会の協力により、70歳以上の一人暮らし高齢者489人に配布した。

### 【まとめ】

- 区長会の協力により、戸別募金ではほぼ従来どおり住民からの協力を得られたこと、町内の福祉協力校7校で児童や生徒に学校募金に取り組んでいただいたこと、職域募金や個人募金に力を入れ、「ガチャガチャ募金」を継続して設置するなど、多様な募金方法を取り入れたことによって、募金実績額が目標額を大きく上回る結果となった。
- 各地区のふれあいまつりや町文化祭で共同募金の啓発を行った。啓発用のポスターや動画を作成し活用内容の周知に力を入れた。
- 配分金の活用事業に参加している方に共同募金の啓発を行い、自分たちの身近なところで共同募金が活用されていることを理解してもらった。
- 歳末慰問に関して例年どおり70歳以上の一人暮らし高齢者を対象に実施したが、配布する慰問品については様々な意見が挙がっており検討していく。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-1
	拠点区分	受託事業	決算書	84頁
	サービス区分	日常生活自立支援事業		

**【事業報告】**

(1) 日常生活自立支援事業 **三重県社会福祉協議会から受託** **重**

◆市町社会福祉協議会センター業務

利用者数 35名 (令和6年3月末時点)

援助回数 延べ922回

<内訳>生活支援員 602回

専門員 320回

生活支援員 5名 (令和6年3月末時点)

主な支援内容

定期的な面会、預貯金の払い戻し・預入、生活費の代行支払書類等預かり

◆福祉サービス利用援助事業

**【まとめ】**

- 独居で身寄りのない利用者が多く、入院や入所、死亡等で突発的に必要になる手続きも、当事業で対応することで安心につながっている。
- 関係者に業務範囲以上の対応を要求されることが多く、当事業の内容を十分に理解してもらうため、周知が必要である。
- 昨年度と比べ、利用者は3名減、生活支援員は2名減だった。生活支援員は利用者の相談に応じて信頼関係を築き、きめ細やかな支援を行っているが、業務の難しさや金銭を扱うという特殊性から、民生委員児童委員経験者やヘルパー経験者などがその役割を担っている。退職や休職で支援員の人数が減少しており、今後は生活支援員の確保が課題となっている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-2
	拠点区分	受託事業	決算書	84 頁
	サービス区分	老人福祉センター事業		

### 【事業報告】

#### (1) 菰野町老人福祉センター **町から受託**

##### ◆老人福祉センター事業の実施

開館日数	304日
台風による休館	1日
大雪による休館	1日
一般浴利用者数	延べ42,165人(一日平均157人)
歩行浴利用者数	延べ5,949人(一日平均22人)
けやき講座	延べ141回 延べ1,118人 (伊勢型紙、陶芸、ステンシル、俳句、フォークダンス)
初心者向けヨガ教室	36回 延べ295人
音楽室	利用中止

##### ◆温泉スタンドの運営協力、コイン販売

温泉スタンド 令和5年4月3日～有料(コイン販売再開)

### 【まとめ】

- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行された以降も、一般浴と歩行浴は、混雑と密を避けるため地区による利用制限を設け、地区別での利用(月・水・金は菰野地区、火・木・土は鶴川原・竹永・朝上・千種地区)とした。  
教養娯楽室の利用については、飲食を禁止として開放した。囲碁・将棋の場として活用いただいた。  
その他、図書室、介護機器展示室などは、基本的にはコロナ禍以前の運用に戻した。
- けやき講座については、受講定員を縮小して5講座を5月から開講した。  
フォークダンス以外の4講座については、1年かけて取り組んだ集大成として作品展示を行い、けやき来館者に鑑賞いただいた。
- 施設や設備の老朽化による故障や不具合が多く発生したが、それらの一部は寄附金の活用で修繕した。
- 日頃から一般浴や歩行浴の利用者の心身の状態の変化に気付けるように努めており、何らかの対応が必要な場合には、地域包括支援センターなどの相談機関につなげている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-1
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	介護保険事務		

**【事業報告】**

◆介護保険等の給付管理業務

**【まとめ】**

- 特に問題なく、給付管理業務および利用料徴収業務を行うことができた。
- 返戻や再請求が生じた場合には、原因を追究し再発防止に努めた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-2
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	訪問介護事業		

### 【事業報告】

(1) 菰野町ホームヘルパーステーションけやき

#### ◆訪問介護事業（介護保険・総合事業）の実施

##### ◎訪問介護

稼働時間	7, 888時間
身体介護	5, 876時間
身体生活	1, 565時間
生活援助	447時間
契約者数	新規契約 43人
	契約終了 44人
内訳	長期入院入所 22人
	終末期（6か月未満） 9人
	他サービスに移行 7人
	その他 6人
	3月末契約者数 53人

##### ◎第一号訪問事業（総合事業）

稼働時間	853時間
月単価	訪問型独自サービスⅠ 20時間
	訪問型独自サービスⅡ 0時間
	訪問型独自サービスⅢ 27時間
回数単価	訪問型独自サービス短時間 なし
	訪問型独自サービスⅣ 36時間（菰4・四32）
	訪問型独自サービスⅤ 291時間（菰277・四14）
	訪問型独自サービスⅥ 479時間（菰383・四96）
契約者数	新規契約 6人（菰6・四0）
	契約終了 7人（菰6・四1）
内訳	長期入院入所 2人
	死亡 1人
	他サービスに移行 4人
	その他 0人
	3月末契約者数 9人（菰7・四2）

### 【まとめ】

- 前年度から契約者数が若干減少した。また、終了者数においても前年度に比べて若干減少した。
- 訪問介護の特性上、急な依頼や内容・時間の変更が多く、専門的な判断をしな

がら臨機応変に対応した。

- 介護保険の制度上、サービス内容に制約がある生活援助については、有償ボランティアや住民参加型在宅福祉サービスなどの利用により、訪問介護の利用が減少傾向にあると思われるが、認知症の利用者のケースにおいては、自立支援を目的として身体介護のサービス利用が増加した。
- ここ数年、介護施設の入所者数が増加傾向にあることから、入所や入院などによって訪問介護サービスの利用機会が減少しており、減収となった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-3
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	通所介護事業		

### 【事業報告】

#### (1) 菰野町デイサービスセンターけやき

##### ◆通所介護事業（介護保険・総合事業）の実施

開所日	308日
契約者数	29人（令和6年3月末時点）
新規	5人
終了	52人
利用者数延べ	6,461人
内訳 介護	4,853人
総合事業	1,608人

##### ◆日中一時支援事業（障害福祉サービス）の実施

利用日数	103日
契約者	3人
利用者数延べ	129人

### 【まとめ】

- 新型コロナウイルス感染症が第5類に移行してからも、利用者が安心してサービスを利用できるよう、引き続き感染対策を徹底して運営し、感染者が発生しないように努めた。
- 運営については、今年度前半と中盤に職員が異動や退職により減員となったが、業務体制の見直し・効率化を図り、業務の安定化に努めた。
- 令和6年9月30日でデイサービスを休止することが決まったため、利用者、家族、担当ケアマネジャーと相談しながら、利用者が他の事業所へスムーズに移行できるように努めた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-4
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	居宅介護障害事業		

### 【事業報告】

(1) 菰野町ホームヘルパーステーションけやき

◆居宅介護事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 3, 607時間

身体介護 3, 070時間

通院介助 154時間

家事援助 383時間

回数 身体介護 3, 929回

通院介助 94回

家事援助 623回

新規契約 0人

契約終了 4人

内訳 入院入所 0人

死亡 0人

他サービスへ移行 4人

年度利用者数 32人

内訳 身体障害者 11人

知的障害者 9人

障害児 3人

精神障害者 9人

◆同行援護事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 405時間 回数 307回

新規 0人

終了 0人

年度利用者数 3人

◆移動支援事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 457.5時間

回数 163回

年度利用者数 17人

### 【まとめ】

- 居宅介護は、職員不足により他事業所へ移行したケースがあり、大幅な減少となった。
- 同行援護は、買い物などの定期利用が定着、安定している。
- 移動支援は、コロナ禍の外出自粛が解消されつつあり、増加の傾向となった。
- 移動支援などの外出介助については、人員の配置状況をみながら利用時間数を

調整するなどの対応を行った。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-5
	拠点区分	自主事業	決算書	91頁
	サービス区分	相談支援事業		

**【事業報告】**

(1) 菰野町障がい者虐待防止センター業務 **町から受託**

◆障がい者虐待防止センターの運営

通報件数	5件
＜内訳＞身体的虐待	2件
心理的虐待	3件
経済的虐待	0件

(2) 菰野町居宅介護支援事業所けやき

◆特定計画相談支援・障害児相談支援事業（障害福祉サービス）の実施

給付対象者数	169件（令和6年3月末時点）
＜内訳＞障がい者	138件
障がい児	31件

給付管理数 延べ732件

◆障害支援区分認定調査（障害福祉サービス）の実施 **町から受託**

認定調査数	52件
＜内訳＞町内	48件
町外	4件

**【まとめ】**

- 障がい者虐待防止センターの運営については、行政や障がい者相談支援センター、相談支援事業所などと連携して虐待の早期発見・解決を図った。
- 施設職員による利用者への注意の言葉がけや、家族からの暴力について、本人やサービス事業所、相談支援事業所からの通報が入り、必要な連携を取って対応を行った。
- 相談支援専門員2人体制で170人程度の利用者を担当している。今年度は職員異動があり、新規依頼があってもすぐに対応できずに待つてもらったこともあったが、できる限り迅速に受け入れるようにして、給付管理数を減らさないように努めた。閉鎖する特定相談支援事業所があり、3名の利用者を受け入れた。
- 児童虐待防止や防災関連の研修に参加し、職員のスキルアップを図った。引き続き相談支援部会にも出席し、ほかの相談支援事業所との情報連携にも努めた。
- 町内ではサービス事業所が少ないため、新規事業所の情報があれば利用者に情報提供し、障害者総合支援法以外の社会資源の紹介を行った。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-1
	拠点区分	わかば作業所	決算書	106頁
	サービス区分	就労支援事業		

### 【事業報告】

#### (1) 菰野町わかば作業所

##### ◆就労継続支援B型事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	244日
利用者数	27人（令和6年3月末時点）
新規登録者	1人
削除者	1人
利用人数（延べ）	5,011人
利用者平均工賃	21,384円/月
ボランティア数（延べ）	216人

##### ◆日中一時支援事業（障害福祉サービス）の実施

利用日数	0日
契約者数	0人（令和6年3月末時点）
利用者数（延べ）	0人

### 【まとめ】

- 多様な障がい種別の利用者を受け入れており、それぞれに応じた柔軟な支援を行った。
- 昨年と比較すると利用者数が3人減で、年間利用延べ人数は25人の減であった。
- 就労事業の内職作業は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響により企業からの受注数の変動があり、特に段ボール作業については受注量の減少が続いている。
- 行政からの請負作業である認定こども園の草刈り作業は、依頼が昨年の2倍になったことで、利用者の作業機会と工賃収入の増につながった。
- 利用者・職員ともに感染予防を徹底していたことで、新型コロナウイルス感染による事業所内でのクラスター発生もなく、事業所を閉所することはなかった。
- 日中一時支援は、今年度の利用申込みがなかった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-2
	拠点区分	わかば作業所	決算書	106頁
	サービス区分	生活介護事業		

### 【事業報告】

#### (1) 菰野町わかば作業所

##### ◆生活介護事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	242日
利用登録者数	14人（令和6年3月末時点）
	新規 1人
	削除 1人
利用人数	延べ2,612人
利用者平均工賃	7,430円/月
ボランティア数	延べ28人

### 【まとめ】

- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、今まで中止や縮小していた事業を概ね通常通り実施できた。
- 令和5年9月に就労継続支援B型に通っていた利用者が、生活介護事業へ利用変更することとなり、利用登録者が1人増の登録者数15人となった。しかし、令和6年2月中旬に生活介護事業の利用者が1人施設入所することになったため、登録者数は年度当初と変わらず14人となった。年間利用延べ人数は151人の増であった。
- 生活介護事業の内職作業で中心となっていた焼き芋用の石を袋詰めする作業が、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響により終了となり減収となった。
- 今年度からの新規事業として、行政からの請負作業である庁舎トイレ清掃作業を行うことで利用者の作業機会の提供と工賃収入を得ることができた。
- 新規利用者の獲得を目指して、特別支援学校や関係機関などとの連携を密にし、実習生を積極的に受け入れるなどわかば作業所の利用につながるよう働きかけた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-3
	拠点区分	わかば作業所	決算書	106頁
	サービス区分	精神デイケア事業		

### 【事業報告】

(1) 菰野町在宅精神障害者支援事業 **町から受託**

#### ◆フリースペース事業の実施

開所日数	44日
利用者数	9人（令和6年3月末時点）
新規	2人
削除	2人
利用人数	延べ180人
ボランティア数	延べ195人
見学、実習受け入れ	延べ11人
相談件数	2件

### 【まとめ】

- 利用者の参加が少ない日やボランティアが集まらない日があり、開所日数および利用者数が少なくなった。
- 登録削除者が2人いたが新規利用者も2人いて、利用登録者の総数に変動はなかったが、関係機関等らの紹介および見学や体験など増加傾向にあった。
- フリースペース事業の運営に協力してもらっているボランティアが高齢になり、ボランティア活動が負担になっているため新たな担い手を育成していく必要がある。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-1
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	社会福祉大会事業		

### 【事業報告】

社会福祉関係者等の顕彰

◆菰野町社会福祉大会の開催 **町から受託**

令和5年9月8日（土） 菰野町町民センターホール

第1部 式典（顕彰） 被表彰者 29人

第2部 記念講演 講師：三浦伸也氏

（株式会社ほがらかカンパニー 代表取締役社長）

演題「子どもから学ぶ しあわせの見つけ方」

◆叙勲、全国社会福祉大会、三重県社会福祉大会などの顕彰推薦

○三重県福祉関係功労表彰（知事表彰）

ボランティア功労者 オルゴール

### 【まとめ】

- 4年ぶりにコロナ禍以前と同様に式典（顕彰）を行い、その後講演会も実施しての開催となった。
- 第2部記念講演後に被表彰者の記念撮影を実施しているが、式典（顕彰）後に退席される方もおり、記念撮影や記念講演の実施方法や必要性を検討する必要がある。
- 社会福祉大会表彰要綱の見直しを行った。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-2
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	受託ヘルパー事業		

### 【事業報告】

#### (1) 在宅高齢者生活援助員派遣事業 **町から受託**

##### ◆ふれあい訪問事業の実施（令和6年3月末時点）

福祉票総数	8 2 8 件
＜内訳＞一人暮らし世帯	5 2 3 件
高齢者世帯	1 7 1 件
高齢者のいる世帯	8 5 件
障がい者世帯	4 9 件
その他	1 件

訪問回数	7, 9 1 6 回
＜内訳＞一人暮らし世帯	6, 9 8 5 回
高齢者世帯	6 4 5 回
高齢者のいる世帯	2 1 4 回
障がい者世帯	7 0 回
その他	2 回

相談件数	
＜内訳＞対象者からの相談	1 6 件
行政機関等との相談	1 8 6 件
民生委員との相談	1, 0 2 0 件
家族近隣等との相談	7 件
緊急対応等	6 件
医療等関係機関との相談	1 0 6 件

##### ◆ふれあいホームヘルプサービス派遣事業（福祉ヘルプ）の実施 利用者なし

### 【まとめ】

- 福祉票提出世帯の見守りについて、原則として一人暮らし世帯は月に一度、高齢者世帯は2か月に一度、高齢者のいる世帯は3か月に一度、それ以外の世帯は適宜訪問した。それにより安否確認や日常生活の相談を行い、必要に応じ医療機関や家族への支援要請などの対応を行った。
- 訪問対象者から受けた相談は、必要に応じて地域包括支援センターや生活支援コーディネーター、民生委員と連携して解決にあたった。家族とも連携を図ることで生活課題の早期発見と早期対応につなげることができた。
- 訪問時に、認知症やフレイル予防のために必要な情報を提供し、みんなの運動サロンなどの介護予防事業、けやきでお茶のみ会などへの参加を促した。
- 高齢者交通安全アドバイザーとしての活動も、訪問時に啓発グッズを配布する

など、継続して行った。

- 行政や医療機関、民生委員と今後も適宜情報共有を行い、緊密に相談できる関係性を強めるよう努めた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-3
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	地域包括支援センター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町地域包括支援センター **町から受託** **重**

◆地域包括支援センターの運営

①総合相談支援業務の実施

相談および支援の相談件数	16,262件
＜内訳＞ 予防給付	12,435件
ハイリスク	47件
総合相談	3,227件
介護用品	52件
住宅改修	141件
虐待ケース	74件
権利擁護	9件
消費者問題	2件
困難ケース	39件
病院	209件
障がい相談	27件

②権利擁護相談支援業務の実施

高齢者虐待通報人数	5人
虐待ケース相談	74件
権利擁護相談	9件
消費者問題相談	2件

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の実施

ケース検討会議	5回	延べ51人
町内ケアマネ研修会	0回	

④介護予防ケアマネジメント業務の実施

介護予防給付等の給付管理数	延べ3,872件
---------------	----------

⑤その他

介護サービス担当者会議	6回 (リモート)
医療・介護ネットワーク会議	4回 (内リモート2回)
医療・介護ネットワーク研修会	3回 (内リモート1回)
在宅医療講演会	1回
菰野町SOSネットワーク事業	
＜内訳＞登録者数	37人 (令和6年3月31日)
検索協力者数	334人 (令和6年3月31日)
認知症初期集中支援チーム	
＜内訳＞支援対象	0人

その他	3人
チーム員会議	0回
検討委員会	0回

認知症サポーター養成講座	4回	延べ83人
けやきでお茶のみ会	11回	
傾聴ボランティア活動	25回	延べ25人

### 【まとめ】

- 新型コロナウイルス感染予防対策として、会議や研修はリモートで実施していたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからは、徐々に対面での開催に切り替えた。しかし、リモートには参加者の業務、移動の効率化のメリットもあるため、会議や研修の内容に応じて使い分けて実施した。
- 病識のない重度認知症の利用者や、職員に対するカスタマーハラスメント行為のある介護者への対応など、対応困難なケースについては複数の職員で対応にあたった。
- 認知症支援に関しては、認知症地域支援推進員研修や認知症初期集中支援チーム員研修などを受講し、認知症支援に必要な専門的な知識と技術の修得を積極的に行った。また、近隣の認知症疾患医療センターと連携し、支援困難な認知症の方の早期診断への橋渡しや早期対応に努めた。
- 介護者の支援としては、認知症カフェや住民参加型在宅福祉サービスなど社会資源の紹介や介護者への傾聴などを行い、介護負担の軽減などの対応にあたった。
- 医療と介護の連携推進を目指し、顔の見える関係づくりと医療や社会資源などの知識向上を目的に、対面での研修会を実施し、医療職と介護職の交流を図った。
- 病院の地域連携室連絡会で情報交換を行い、入院患者が安心して地域移行できるよう共通認識を深めた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-4
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	配食サービス事業		

### 【事業報告】

(1) ひとり暮らし老人等配食サービス事業 **町から受託**

#### ◆配食サービスの実施

昼、夕食（月～土）の訪問給食サービスの実施

実施日数 308日

利用者登録数 42人（令和6年3月末時点）

（内、利用料減免対象者16人）

配食数 11,506食

<内訳>昼食 3,731食（一日平均12食）

夕食 7,775食（一日平均25食）

### 【まとめ】

- 前年度より配食数は減少した。新規利用者もあったが、入院や施設入所で継続して利用されないこともあり、短期で終了するケースが多く、配食数の増加にはつながらなかった。
- 利用者の多くが日中はデイサービスを利用しているため、昼の配食数を確保するのは難しい状況である。居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対し配食事業の周知をすることで配食数の確保に努力した。
- 普通食だけでなく、利用者の状況に合わせて、お粥や刻み食を提供したり、服薬確認を必要とする利用者には、配達時に薬の用意や服薬確認を行い、飲み忘れがないよう支援している。また、弁当箱を居室のテーブルまで運ぶなどのきめ細かな支援も必要に応じて行っており、利用者の在宅生活を支えている。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-5
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	サテライトデイサービス事業		

### 【事業報告】

#### (1) サテライト型デイサービス事業 **町から受託** **重**

##### ◆高齢者ふれあい・いきいきサロンの運営支援

いきいきサロン実施	33箇所	332回
参加者	延べ4,	110人
地域の茶の間実施（毎週型のサロン）	2箇所	150回
参加者	延べ1,	899人

##### ◆いきいきサロン交流会の開催

未実施

### 【まとめ】

- いきいきサロンの運営については、それぞれのサロンの参加者が内容を考え、地域独自の活動ができるようになってきた。年間計画を立てるにあたっては、参加しやすく、参加者の年齢に配慮した内容を提案した。
- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、ほとんどのサロン、茶の間が活動を再開した。
- 参加者の高齢化により、会場までの移動が困難になってきている。
- いきいきサロンの主催者の違いで地区ごとに回覧の経路が異なるため、開催日程が地区全体に周知されていない事があり、地区の理解をいただきながら周知方法を検討する必要がある。
- いきいきサロン交流会については、関係団体との調整がつかず今年度は開催できなかった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-6
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	介護予防事業		

### 【事業報告】

#### (1) 介護予防教室事業 **町から受託**

##### ◆運動機能向上事業への協力

はつらつ体力づくり教室 短期集中予防サービス (2コース) 92回 延べ 611人

◆栄養改善事業への協力 4回 延べ 57人

◆口腔機能向上事業への協力 3回 延べ 47人

#### (2) 一般介護予防教室への協力

##### ◇認知症予防事業

にこにこアップ教室 (1コース) 7回 延べ 97人

にこにこアップ教室OB会 11回 延べ 286人

◇転倒予防運動教室 (4コース) 46回 延べ 398人

### 【まとめ】

- 短期集中予防サービスにおいては、日常生活は自立しているものの、認知機能に心配のある方やのりあいタクシー乗降場所まで歩けないなどの理由により、送迎が必要な方の利用希望が増えている状況である。
- 予防教室終了者の活動性を維持するため、地域の活動の場 (各種サロン) や趣味活動などに参加することを目標としているが、様々な理由により、地域資源への移行は難しく、介護事業所による通所サービス利用に移行する方が多い。地域になじめない方にとっての社会参加の場として、保健福祉センターけやきの一般浴や共用部分での交流を短期集中予防サービス利用中に組み入れていくなど、より具体的で実践的な内容を取り入れていく必要がある。
- 栄養改善事業や口腔機能向上事業については、それぞれの専門家を講師としていきいきサロンに派遣することで地域での介護予防を推進している。
- 一般介護予防教室のうち、フレイル予防教室は、後期高齢者健診の結果から一定条件のもと対象者を抽出し、個別通知による募集を行ったところ、これまでに参加したことのない多くの方から申し込みがあった。今後も、活動性の低下による廃用性症候群やフレイル予防についての普及啓発のために、様々な機会を活用し、参加者を募り、安心して参加できる予防教室を開催していく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-7
	拠点区分	受託事業	決算書	120頁
	サービス区分	いきいき拠点整備調査事業		

### 【事業報告】

#### (1) 多機能型高齢者いきいき拠点整備調査事業 **町から受託**

##### ◆介護予防機能強化型サロンの創設

菰野地区みんなの運動サロン	24回開催	参加者延べ	1,162人
鶺川原地区みんなの運動サロン	24回開催	参加者延べ	502人
竹永地区みんなの運動サロン	24回開催	参加者延べ	596人
朝上地区みんなの運動サロン	22回開催	参加者延べ	439人
千種地区みんなの運動サロン	23回開催	参加者延べ	475人
計		117回	延べ3,174人

##### ◇動楽サロンの開催支援

動楽サロン（中菰野）	22回開催	参加者延べ	626人
------------	-------	-------	------

#### (2) 介護予防支援員養成事業 **町から受託**

##### ◆お元気サポーター事業の実施

菰野地区コミュニティセンター	8回開催	参加者延べ	297人
----------------	------	-------	------

#### (3) 認知症カフェ事業

##### ◆認知症カフェ事業の推進

##### 認知症カフェの開催

Tomo Café	10回
つながりカフェ@おじま	12回

##### ◆認知症カフェ事業への助成金交付

Tomo Café	30,000円
つながりカフェ@おじま	36,000円

### 【まとめ】

- 多機能型高齢者いきいき拠点整備調査事業は、各地区で毎月2回程度開催することができた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで活動を再開した人や、口コミや広報などにより新規で参加した人が各地区で増加した。
- お元気サポーター養成講座の参加者は健康づくりへの意識が高く、講座終了後はみんなの運動サロンへの参加につながっている。
- 認知症カフェ事業の主催者が安心してカフェを開催できるよう、感染予防に配慮しながら開催のサポートを行った。
- 認知症カフェ助成金の交付により、活動の支援を行った。

会計区分	事業区分	公益事業
	拠点区分	受託事業
	サービス区分	通訳養成研修事業

管理No.	2-1-8
決算書	121頁

**【事業報告】**

(1) 通訳者養成研修事業 **町から受託**

◇手話通訳奉仕員ステップアップ研修事業の実施

30時間

受講者数 9人

◆手話通訳奉仕員養成研修事業の実施

入門編35時間

受講者数20人

◆要約筆記奉仕員養成研修事業の実施

現任研修 手書き講座4時間 パソコン講座4時間

受講者数延べ17人

**【まとめ】**

- 手話奉仕員ステップアップ講座を開講し、手話通訳者養成講座に進む受講生をサポートした。
- 手話学習の裾野を広げるため、手話通訳奉仕員養成講座入門編を開講した。
- 要約筆記奉仕員養成研修は、現任奉仕員より事前に講義内容の要望を聞き、講師に伝えることで今後の活動に活かせる研修となった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-9
	拠点区分	受託事業	決算書	121頁
	サービス区分	ファミリーサポートセンター事業		

### 【事業報告】

#### (1) ファミリー・サポート・センター事業 **町から受託**

##### ◆ファミリー・サポート・センターの運営

サポート会員講習会の開催（全5回）受講者数12人 延べ60人

依頼会員の募集

赤ちゃん訪問、ブックスタート、各種健診、ひろば、子育てサロン、子育て支援センター（月1回土曜日開催）、広報紙等での周知。

サポート会員と依頼会員のコーディネート

会員数 941人

＜内訳＞依頼会員 668人（土曜日登録数16人）

サポート会員 197人

両方会員 76人

活動件数 888回

＜内訳＞保育施設の保育開始や保育終了後の預かり 145回

保育施設等までの送迎 83回

学童開始前や終了後の子どもの送迎・預かり 142回

学校の放課後の子どもの送迎・預かり 48回

保護者等の外出・リフレッシュ 78回

保護者の短時間・臨時的就労の送迎・預かり 43回

子どもの習い事等 11回

障がいを持つ子どもの送迎・預かり 120回

小学校の朝の送迎 150回

その他 68回

サポート会員フォローアップ研修開催 参加者数16人

サポート会員と依頼会員の交流会開催 参加者数80人

### 【まとめ】

- 新規サポート会員講習会は、全5地区より即戦力の幅広い年齢層が集まった。
- 依頼会員の登録は随時あり、月1回の土曜日の子育て支援センターでの登録会のほか、ブックスタート等子育て支援事業の都度、その場で顔の見える関係で安心して登録できることが高い評価を得ている。
- 今年度の特徴は、障がいを持つ子どもの送迎・預かりが増加したことである。夏休み等長期休みの朝、放課後等デイサービスを利用する前の継続預かりが多く、子どもの成長と行動を把握し、連携を図りながらきめ細かく対応したことで相互会員の信頼関係が深まった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-10
	拠点区分	受託事業	決算書	121頁
	サービス区分	子育て支援事業		

### 【事業報告】

(1) 子育て地域支援事業 **町から受託** **重**

◆子育て支援事業の実施 **募**

子育てサロンの実施

菰野地区	20回	延べ	317人
鶴川原地区	24回	延べ	307人
竹永地区	21回	延べ	98人
朝上地区	21回	延べ	96人
千種地区	20回	延べ	254人

計 106回 延べ1,072人 (スタッフ含む)

親子508組

子育て支援者およびグループの育成

子育てキーパーソン養成講座の開催 (全2回)

受講生数12人 延べ24人

子育て支援行事の実施

①ベビーマッサージ (産後のリフレッシュ体操) の開催

6回実施 参加者数 49組

②親子で楽しむ人形劇 (3回公演) 177人

子育て支援の啓発 (子育て通信「こもっ子 mama」の発行)

年4回 (春・夏・秋・冬) 全戸配布

◆養育支援訪問事業の実施

訪問回数 181回

訪問時間 347時間

利用人数 7人

訪問スタッフ 5人

◆伴走型相談支援教室事業の実施 **新**

たまびよ広場の開催

11回実施 参加者数 144人 (対象230人)

### 【まとめ】

- 子育てサロンの参加者数はかなり減少した。スタッフであるキーパーソンの多くは就労しているが、子育てサロンを大切にしたいから仕事を休んで参加している状況から、本来の子育てサロンの目的が不明確のため、来年度は見直す必要がある。
- ベビーマッサージは親子のふれあいの時間を持つことでリフレッシュでき、参加者同士の情報交換できる良い機会となった。
- 養育支援訪問事業は、昨年度の4倍の訪問回数となり訪問スタッフを増員し

た。利用者のニーズに合わせた支援を行ったことで、育児に前向きなり家庭環境が整い仕事復帰につながった。

- 新規事業である伴走型相談支援事業（たまびよ広場）は、妊娠8ヵ月の出産を間近に控えた妊婦対象で6割ぐらいの参加率であった。参加者のアンケートに基づいて専門職による相談や出産後の子育て情報を知る機会となり、子ども1人に5万円相当の経済的支援が受けられる有益な教室であることを、子ども家庭課とともに周知を徹底していく必要がある。

会計区分	事業区分	公益事業
	拠点区分	受託事業
	サービス区分	あいあい自動車運営事業

管理No.	2-1-11
決算書	121頁

**【事業報告】**

(1) 公共交通空白地有償運送事業

◆あいあい自動車事業の実施 **町から受託**

※令和4年度で事業終了。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-12
	拠点区分	受託事業	決算書	121頁
	サービス区分	生活支援体制整備事業		

### 【事業報告】

#### (1) 生活支援体制整備事業

#### ◆生活支援コーディネーターの配置 **町から受託** **重**

##### 各地区対応件数

菰野地区	延べ305件
鵜川原地区	延べ69件
竹永地区	延べ217件
朝上地区	延べ229件
千種地区	延べ63件

##### 福祉相談窓口（13時30分から16時）

菰野地区	木・金曜日	98日
鵜川原地区	火・金曜日	99日
竹永地区	月・木曜日	96日
朝上地区	火・水曜日	100日
千種地区	月・水曜日	95日

- ・住民の助け合い活動についての相談とサポート
- ・地区民生委員児童委員協議会活動への対応
- ・介護認定や在宅介護に関する相談等受付
- ・介護認定非該当や精神疾患でサービス利用がない方へのサポート
- ・生活支援ニーズの把握
- ・地域ボランティアの活動サポート

### 【まとめ】

- 地域助け合い活動の支援を行い、住民自身が地域の課題をわが事としてとらえ、参加できるシステムの構築に注力した。
- 民生委員児童委員協議会の地区担当を生活支援コーディネーターが担うことで、相談窓口が明確になり、相談や連携が取れる状態になった。
- 生活支援コーディネーターが、各地区コミュニティセンターへ定期的に赴くことでコミュニティセンター運営委員会への参画や、公民館との連携、区との協働体制が取れるようになった。
- 地域で生活支援コーディネーターが認識されるようになり、住民の困りごとを住民の身近な場所で把握し、支援できるようになった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-1
	拠点区分	自主事業	決算書	138頁
	サービス区分	居宅介護支援事業		

### 【事業報告】

#### (1) 居宅介護支援事業所けやき

##### ◆居宅介護支援事業（介護保険）の実施

開所日数	243日
給付管理数	181件（令和6年3月末時点）
＜内訳＞介護給付	181件
予防給付	0件
給付管理延べ数	2,388件
＜内訳＞介護給付	2,388件
予防給付	0件
職員研修	44回 97人
部内会議	51回 延べ428人

##### ◆要介護認定調査（介護保険）の実施 **町から受託**

認定調査数	718件（在宅 376件、施設 342件）
＜内訳＞菰野町	679件（在宅 376件、施設 303件）
四日市市	18件（在宅 0件、施設 18件）
川越町	0件（在宅 0件、施設 0件）
朝日町	2件（在宅 0件、施設 2件）
その他	19件（在宅 0件、施設 19件）

### 【まとめ】

- 毎年暑さ、寒さが厳しい時期には利用者の長期入院や死亡が増えており、その時期には給付管理数減少が顕著になってしまう。新規受け入れをできるだけスムーズに行っていく必要がある。
- 介護者が一人で介護する世帯や、複数の課題を抱える利用者が増えている。多職種連携や部署内外と連携しながら支援にあたった。
- 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、集合研修の開催が増えてきた。ケース検討会議や外部事業所との共同企画による勉強会などは参加人数や開催場所が配慮され、対面による開催も増えて参加者と一体感をもって研鑽することができた。法定研修では資格更新研修が引き続きリモートで開催され、時間的な制約を受けずに受講することができた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-2
	拠点区分	自主事業	決算書	138頁
	サービス区分	訪問看護事業		

### 【事業報告】

#### (1) 訪問看護ステーションけやき

##### ◆訪問看護事業（介護保険、医療保険）の実施

開設日数 259日

利用延べ人数 46人（医療保険23人、介護保険23人）

訪問回数 2,157回

（医療保険1,060回、介護保険1,097回）

### 【まとめ】

- 延べ人数、訪問回数ともに前年度より減少した。週に2、3回訪問をしていた利用者の訪問終了や入院などで訪問回数が減った。それを埋めるだけの新規利用者が増えなかった。
- 独居の利用者も増えており、関係機関との情報共有や対応の相談など連携を取ることが増えている。
- 職員のスキルアップについては、訪問看護ステーション協議会へ入会したが、平日の研修開催が多く、参加が難しかった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-3
	拠点区分	自主事業	決算書	138頁
	サービス区分	研修事業		

### 【事業報告】

#### (1) 職員の資質向上

##### ◆資格取得支援

職員の有資格者数（令和6年3月末時点 職員129人中）

＜内訳＞社会福祉士資格保持者	23人
介護福祉士資格保持者	66人
介護支援専門員資格保持者	31人
精神保健福祉士資格保持者	1人
保健師資格保持者	1人
看護師資格保持者（准看護師含む）	12人
介護職員初任者研修等修了者	76人

##### ◆各種研修への参加促進

三重県社会福祉協議会が実施する相談支援従事者研修等への参加。

#### (2) 福祉人材養成業務 重

##### ◆福祉人材育成の実施（各種研修・講座の開催と協力）

・介護福祉士実務者研修の開催（ユマニテクキャリアアカデミーに協力）

開催日数	7日	延べ	152人（他教室振替者含む）
受講生	22人	修了者	22人

### 【まとめ】

- 職員の資質向上について、専門的な知識や技術を持って援助にあたる専門職の存在は、住民や関係機関から信頼を得る上で重要である。働きながらも新たな資格の取得や資格取得や資格の更新を行えるように継続して環境を整えている。
- 福祉人材養成業務については、国家資格である介護福祉士の資格取得を目指すための介護福祉士実務者研修を学校法人に協力する形で実施した。昨年度と比べ受講生は7名減っている。しかし、今後も介護人材不足が懸念されているため、来年度も研修開催を協力して継続していく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-4
	拠点区分	自主事業	決算書	138頁
	サービス区分	しらゆり事業		

**【事業報告】**

(1) 喫茶しらゆり

◆自動販売機の設置運営

自動販売機 2 台設置

**【まとめ】**

- 令和元年度末で喫茶しらゆりの運営業者が撤退し、その後、新型コロナウイルス感染症の拡大により休業が続いていた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、社会活動もコロナ禍以前の状態に戻りつつあるため、保健福祉センターけやき内での飲食の提供についても検討が必要で、今後の喫茶しらゆりの運営については菰野町と協議していく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-3-1
	拠点区分	ことぶき人材センター	決算書	147頁
	サービス区分	ことぶき人材センター事業		

### 【事業報告】

#### (1) ことぶき人材センター **町から受託**

##### ◆ことぶき人材センターの運営

##### 会員登録の推進

会員数（令和6年3月末現在） 100人（男62人、女38人）

##### 就労先の開拓

受注件数 808件

##### 会員への就労斡旋等

請負契約金額 72,055,411円

就業人員 延べ10,189人

### 【まとめ】

- 令和5年度の請負金額は、72,055千円で対前年度比389千円、0.54パーセントの減額となった。令和4年度と比較すると、受注件数、延べ就業人員数ともに増加しており、また県の最低賃金の改定を受けて一部配分金単価の増額を実施したが、請負契約金額総額で対前年度実績を僅かに割り込んだ。顕著ではないものの、請負業務で短時間かつ軽易な業務内容が増加したことが影響したと考えられる。
- 令和5年度の単年度収支決算額は、単年度黒字額を維持できたが、令和4年度の前年度と比較すると約130万円程減少している。これは、物価上昇に伴う事業費経費の高騰と令和5年10月より施行された適格請求書等保存方式（インボイス制度）により、会員の消費税負担が賦課された分を事業所として補填したことによる経費の増大が影響している。  
高齢者福祉の一環を担う本事業の趣旨から、今後も継続して三重県シルバー人材センターを通じて経過措置の延長や更なる軽減を求めていく。
- 企業の定年延長の影響により新規会員の加入が少なくなるとともに、加入時の年齢が年々高齢化している。従来からの草刈りや剪定作業等、現場仕事に対応できない新規会員の申し込みもあり、会員の求める就労内容も多岐になっている。会員に就労の場を提供し、会員それぞれの生きがいをづくりに貢献できるよう、今社会が求める子育て支援等に関わる新たな就労機会の開拓も必要であり、行政や子育て支援機関への就労の依頼にも努めてきた。

会計区分	事業区分	その他	管理No.	3-0-0
	拠点区分		決算書	- - -
	サービス区分			

**【事業報告】**

- (1) 社会情勢に合わせた感染症対策の実施
- (2) 事務業務の見直しと事務の効率化、職員の適正配置等
- (3) 各種団体業務

◆町民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員、主任児童委員 77人  
 全員協議会（開催2回）、役員会（6回）、地区民生委員児童委員協議会  
 定例会・研修会、部会活動・研修会、センター給食配達、歳末助け合い  
 事業への協力、災害時安否確認訓練、県外研修（愛知県小牧市）、県民生  
 委員児童委員大会、県民生委員児童委員ブロック別研修会、北勢5町民  
 生委員児童委員協議会会長・事務局会議（1回）、北勢5町民生委員児童  
 委員協議会研修会、全国民生委員児童委員大会（広島県）、広報紙「わ」  
 発行（2回）

◆町老人クラブ連合会

令和5年度菰野町老人クラブ連合会会員数 3,517人  
 菰野町老人クラブ連合会単位クラブ数 32クラブ  
 役員会（5回）会長会（4回）  
 広報紙発行2回  
 囲碁将棋大会 23人  
 グラウンドゴルフ大会 131人  
 こものいきいきクラブのつどい 285人  
 友愛訪問 170人対象  
 役員研修旅行 39人  
 女性部クラブ活動（グラウンドゴルフ、手芸、健康） 延べ549人  
 各単位クラブ活動回数 延べ 5,956回  
 各単位クラブ活動参加者 延べ60,061人

◆町心身障がい者福祉会

理事会（8回）、特別理事会（1回）  
 障がい者の日記念のつどい、県外研修旅行、ボウリング大会  
 大紀町との交流会、広報紙発行

◆町母子父子寡婦福祉会

総会、役員会開催（11回）、行政との交流トーク研修、母子父子会員へ、  
 クリスマスケーキ贈呈、寡婦会員日帰りバス旅行、お便り発行

#### ◆町ボランティア連絡協議会

役員会（5回）、代表者会（4回）、研修会（6回）、総会	
所属	19グループ
各グループ活動回数	604回
参加者 延べ	2,730人

#### 【まとめ】

- 民生委員児童委員協議会については、地区民児協・各部会での活動計画に基づき、定例会や研修会を開催した。研修会は関心の高いテーマを取り上げ、情報や知識の習得につなげることができた。
- 町老人クラブ連合会については、コロナ禍で中止していた事業も再開できた。各単位老人クラブでも活動を再開している。今後についても各事業の実施についてサポートを行っていく。しかし、会員数の減少と役員の担い手不足が慢性的な課題となっており、活動休止となる単位老人クラブも出ている。今後、新規会員獲得に向け、未加入者へのアピールができるような事業を検討する必要がある。
- 心身障がい者福祉会については、徐々に事業を再開することができた。しかし、行事に参加する会員は特定されており参加者数は少ない状況である。また、会員の高齢化が著しく、会員数も減少している。
- 母子父子寡婦福祉会については、初めて行政の交流トーク事業に申込み、日常生活に役立つ内容を2つの部署から説明を受け、活発な意見が出て良い機会となった。寡婦交流事業として4年ぶりに日帰りバス旅行を実施し、久しぶりに会員同士顔を合わせることができた。また、寡婦会員の高齢化と母子父子会員の新規加入も少なく、会員数は減少している。
- ボランティア連絡協議会では、街頭募金や企画行事に加え他市町ボランティア連絡協議会との交流会を実施した。会員同士の親睦の場を作り、他市町ボランティアとの交流を経て会の活性化を図ることができた。

